

「令和7年度第1回高知県食の安全・安心推進審議会」

開催日時：令和7年6月11日（水）14：00～16：30

場所：高知共済会館 3階大ホール「桜」

委員氏名：山下委員、久委員、勝正委員、中村委員、田中委員、西村委員、近藤委員、
足立委員、山本委員

議題：次第参照

1 開会

- ・委員17名中9名の出席で審議会成立。

2 健康政策部長挨拶

3 議事

(1) 第4次高知県食の安全・安心推進計画に基づく昨年度の取組報告及び今年度の計画について

- ・事務局より資料について説明。
- ・各担当課から資料2について説明。

◇審議

委員

①畜産農家とは、牛・豚・鶏を飼育している農家の合計になるのか。また、飼料の高騰等の社会情勢も背景に、離農される方が多いと聞かすが、実際はどうか。

②外食等の持ち帰りに関して、実績として食べ残しで廃棄になるものは減っているのか。

③リスクコミュニケーションについて、今年度の予定やテーマは決まっているのか。

畜産振興課

①畜産農家231戸（令和6年）の内訳は、乳用牛40戸、肉用牛130戸、豚15戸、採卵鶏39戸、肉用鶏7戸となっている。

離農について進んでいるが、農場あたりの飼育数が増えてきており、飼育頭羽数でいえば横ばいあるいは少し減っている程度。県も飼料高騰分の支援を継続しており、離農が進まないよう取組んでいる。

県民生活課

②家庭系食品ロスについては直近の令和4年の推計で9,301tであり、令和2年の20,984tと比較すると半分以下になっている。同じく事業系食品ロスについても、令和

2年度推計の7,780tから令和4年度推計では5,752tとなっており、両者を合わせると13,000t余りがここ数年で減少してきているとの推計結果が出ている。今年も食品ロスの組成調査、実態調査等を行いながら推計を行っていく予定であり、どのように食品ロスの発生量が推移をしていくのか、見ていきたいと考えている。

薬務衛生課

③リスクコミュニケーションについて、県域保健所では例年8月頃に開催しており、全保健所分の計画はまだ提出されていない。県と市が合同で開催する分については、時期未定、テーマは前回のアンケートの結果等をふまえて検討する予定である。

委員

①鶏ふんと油かすの利用について、化学肥料との差はみられないとのことだったが、民家への影響を考えてほしい。

②東の方は工場がないため発展しづらいものの、海の環境を優先してほしいと願っている。現在は旬が曖昧であったり、昔に比べると時期が短くなっているように感じる。

③持ち帰りについて、消費者のその後の取扱いや、情報発信に対する姿勢をふまえると、事業者が心配である。

環境農業推進課

①全てを有機栽培に変えてしまうわけではなく、立地条件等も十分加味し、周囲の住人に迷惑にならないよう検討しながら開発を進めていきたい。

水産政策課

(欠席のため、意見は後ほど共有)

県民生活課

③すべての事業者に対して持ち帰りを強制するものではなく、昨年12月に消費者庁と厚生労働省が策定した食べ残し持ち帰りガイドラインというものがある。このガイドラインの中で事業者と消費者の両者の注意点が示されており、こちらも合わせて周知していきたい。

委員

水産業振興課に2点聞きたい。

①漁業者や仲買業者との意見交換を行ったとあるが、内容を教えてほしい。

②中央地区でのシイラの鮮度管理試験について、業者からの要請がなかったのはどういう理由なのか。

水産業振興課

①船上での処理で刃物を扱うので安全管理であったり、高単価となる体脂肪量が多い時期の測定や調査等の協議があったと聞いている。

②シイラの鮮度管理試験について、漁業者との協議の中で実施したいという話はあつ

たが、具体的な時期等が決まらずに流れたような形と聞いている。

委員

最近あった飲食チェーン店の異物混入事件や、インスタ加工のコンビニに対する衛生指導はどのように考えているか。

薬務衛生課

ご質問にあった施設は、食品衛生法に基づく飲食店営業の許可を取得して製造しており、HACCP に沿った衛生管理が求められる。言われている内容も一般衛生管理として HACCP に沿った衛生管理に含まれており、保健所の指導時には注意して見ていく所存である。

委員

ヘルスマイトの高齢化や、なり手不足があり、意外と地元で周知されていないのではないかと思う。

保健政策課

各市町村でヘルスマイトの養成をしていただいております。県の方でも活動をしっかり伝えていきたい。

委員

①農薬安全使用講習会について、多数ある農家のうちどのくらいの方がこの年2回の講習に参加されているのか。

②シナナムアルデヒドの普及について詳しく聞きたい。

③資料3 ページで有機農場が令和5年度に191haと増えているが、計画を達成する勢いで拡大しているのか、県として拡大の可能性のある試みなのかというあたりを聞きたい。

④化学肥料と堆肥で収穫量としては変わらないということだったが、コスト面での差はどうか。

環境農業推進課

①農薬安全使用講習会は生産農家を対象としたものではなく、JAの指導員や農薬の販売事業者に対して行っており、毎年百数十人程が参加している。

②シナナムアルデヒドとは、シナモンから得られるアルデヒドの一種で、シナモンの香りとなる物質である。つまり、食品添加物等にも使用されている安全・安心な農薬として、普及拡大を考えている。

③令和5年の有機栽培の面積が191haで、目標の160haから大幅に拡大した件について、令和6年の4月に馬路村が県内で初めてとなるオーガニックビレッジ宣言をされた。それにより、馬路村農協にユズを出荷されている四万十町、津野町、梶原町の取組面積

を有機農業の面積にカウントすることを国に承認された結果、現在この191haということになっている。面積拡大に向けて、有機農業者の皆様の生産や販売面、両面での課題解決に様々取り組んでいきたいと考えている。

④この試験研究は始めて2年目にさしかかったところであり、有機質肥料となると従来の化学肥料よりも使用量が多くなり、コストは高くなるという目算である。先の指摘にもあったように臭い等の条件もあるため、使用できる品目や生産者を検討しながらモデルケースを作っていきたい。

委員

①参考資料について、配布対象や部数はどうなっているのか。

②自然毒の食中毒としてはフグが多いと思うが、フグ関係の資料はないのか。

薬務衛生課

①保健所が行う衛生講習において、食中毒関係の資料は毎回配布している。ノロウイルスやカンピロバクター等は通年、キノコや有毒植物については時期になると厚生労働省から注意喚起やリーフレットが届くので、配布資料に追加している。資料は営業者への配布が中心であるが、昨年の県内における食中毒の発生を受けて、消費者の目にとまるような形でも配布を行っている。

②フグについても、県内で食中毒が発生したことにともない資料を作成しているが、今回の配布資料には含めていない。雑種フグのこともふまえて、資料の内容を検討したいと考えている。

委員

資料8ページで中央地区と宿毛地区で市場の拭き取り検査（ルミテスター検査）を実施しているとのことだが、それは抜き打ちか事前告知か。また、他の水揚げ市場でも実施の予定があるのか。

水産業振興課

抜き打ちかどうかはこの場で正確に答えられないが、宿毛地区は毎月1回、中央地区は7月から11月に毎月1回実施すると聞いている。現状は、おそらく要望があったこの2市場のみ実施している。

委員

安全・安心の推進という点では、いろんな市場で検査を実施したらよいかと思う。

委員

同じく資料8ページで体脂肪測定とあるが、これは測定計の確認か、体脂肪率が高くなる時期を見極めるためのデータ収集なのか、こういった意図により行われているのか。

水産業振興課

土佐清水地区の体脂肪率測定のための基礎データというところで、魚種によって電気抵抗値が異なるため、メジカの電気抵抗値と実質の体脂肪率のデータをとりためているところである。

(2) 分科会の開催について

- ・事務局より資料3について説明。
- ・テーマ及び座長は次のとおり決定。
 - ア 「食中毒予防について」 座長：山下委員
 - イ 「食育について」 座長：久委員

4 閉会

◇連絡事項

- ・分科会は秋頃、第2回審議会は1月頃を予定。